第二次審査（論文公開審査）結果の要旨

Possibility of Local Allergic Rhinitis in Japan

本邦における局所アレルギー反応性鼻炎（LAR）の可能性

日本医科大学大学院医学研究科　頭頸部・感覚器科学分野
研究生　石田　麻里子

American Journal of Rhinology & Allergy (online August 14, 2019)　掲載

アレルギー性鼻炎は鼻粘膜におけるダニ・スギを原因抗原とするⅠ型アレルギー性疾患で、原則的には発作性反復性のくしゃみ、（水様性）鼻漏、鼻閉を 3 主徴とする。近年、採血での特異的IgE測定や皮膚試験は陰性であるが、鼻粘膜局所で抗原特異的IgE（以下sIgE）抗体が産生され、誘発テストが陽性となる Local Allergic Rhinitis（以下 LAR）の概念が確立されている。本邦におけるダニ、スギ LAR の報告はない。そこで鼻科手術症例を対象にし、ダニ、スギを抗原とする LAR の実態についての検討を行った。

下鼻甲介手術を施行した 50 例を対象とした。術前に採血による総 IgE、sIgE（3 項目・スギ・ヤケヒョウヒダニ・コナヒョウヒダニ）の測定、皮内テスト、誘発テストを施行した。誘発テストは、ダニ、スギの項目のうち、血中 sIgE 抗体価がクラス 0（IgE0.34IU/ml 以下）の症例に対して施行した。術後、下鼻甲介粘膜局所総 IgE、sIgE の測定を行った。手術検体の重量を測定後、0.6ml の PBS を添加し、総容量を 1ml とした上清を用いて、総 IgE 値、特異的 IgE 値、同 3 項目を測定した。

血中 IgE と局所 IgE では総 IgE 値、スギ、ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニで血中 IgE 値と局所 IgE 値に、有意な正の相関関係が得られた（P<0.01）。ハウスダスト・スギの皮内テスト陰性群と陽性群の比較では、陽性群でダニ・スギともに有意に局所 sIgE 値が高値であった（スギ（P＝0.0003）、ヤケヒョウヒダニ（P=0.0026）、コナヒョウヒダニ（P=0.0151））。

スギ LAR に関する検討では、血中スギ sIgE 値がクラス 0、皮内テスト陰性の症例は 14 例認めた。14 例中、局所スギ sIgE 値がクラス 2 以上（0.7IU/ml 以上）に相当する症例は 8 例で、陽性率 8/14（57%）であった。スギ誘発テスト陽性例は 3 例、疑陽性 1 例、陰性例は 10 例であった。スギ誘発テスト陽性かつ、局所スギ sIgE 陽性症例は 2 例でスギ LAR 確定例は 2/14、14.3%であった。

ダニ LAR に関しては、ダニ血中 sIgE 値クラス 0、皮内テスト陰性の症例は 21 例であった。局所ヤケヒョウヒダニ sIgE クラス 2 以上の症例は 17 例で、陽性率は 17/21（80.9%）

であった。コナヒョウヒダニでの陽性率は100%であった。誘発テスト陽性が5例、疑陽性が6例、陰性例が10例であった。ダニLAR確定例は5/21で23.8%であった。

ダニ、スギを抗原とするLARが本邦でも確認された。

第二次審査ではスギ抗原でのLARの眼症状、鼻汁中IgEと組織IgEの関連性、全身性の抗体産生がどうして生じないのかなどについて議論された。またさらに実際の臨床におけるLARの診断基準など、今後の研究課題及び発展についてなど質疑応答がなされ、それぞれ的確な応答がなされた。以上より、本論文は学位論文として価値あるものと認定した。